

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

鳥取県立米子高等学校

重点項目	アクティブ・ラーニング推進	提出日	平成31年4月26日
------	---------------	-----	------------

1 学校目標

- 確かな学力の育成 ・学力の向上 ・思考力、判断力、表現力の更なる向上
- 豊かな人間性の育成 ・基本的生活習慣の定着 ・生徒の主体的活動の推進
- 地域との連携による学校づくり ・支援が必要な生徒への援助
- 地域との連携による学校づくり ・地域のニーズに応じた地域貢献
- 自己実現のための進路指導の充実 ・積極的な社会参画と情報発信
- 自己実現のための進路指導の充実 ・キャリア教育の発展 ・進路指導の充実

2 重点項目に係る目標・成果

目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> ①組織的、計画的にアクティブ・ラーニングで授業改善を推進する ②系列の特色化と資格取得を促進する ③テーマ学習を進化させ課題解決能力を高める ④ICT機器利活用の推進（活用する教員の推進） <p>〈数値目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 授業研修参加者 150人 ①-2 大学合格者数 30人 ②-1 資格取得（ビジネス文書実務検定1級・秘書技能検定2級・簿記実務検定2級・保育技術検定1級）は合格者が受験者の50% ②-2 実用英語技能検定2級の受験を促進し合格者を増やす ③ テーマ学習における生徒の自己評価アンケート項目「主体性」「働きかけ力」「実行力」「課題発見力」「計画力」「創造力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」における評価が、事前から事後で5段階の平均値が0.5ポイント以上伸長する ④ 教員全体の人数に対して、授業でのタブレット端末活用状況 40% 	<p>〈数値結果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①-1 78名 ①-2 24名 (国公立大学8名) ②-1 44.4% ②-2 1名合格 ③ 0.2ポイント ④ 82.9%

3 実施事業

- 【高等学校課事業】
- アクティブ・ラーニング推進事業～21世紀型能力を育む次世代授業の創造～「学びの文化祭 in Yonago」→5科目で研究授業を実施し、全体での研究協議実施
 - エキスパート教員認定制度→エキスパート教員の研究授業による授業力向上
 - ICT（タブレット端末）活用推進事業→ICT活用による授業改善
 - 鳥取県版キャリア教育推進事業
 - ・「ようこそ高校へ」版キャリア塾→卒業生や県内有識者・県外大学教授等による講演会を実施
 - 外部人財活用事業
 - ・社会人講師活用事業→専門家による教科指導を行い、生徒の学習意欲の向上と職業観、勤労観の育成
- 【学校独自事業】
- 系列事業
 - 英語多読指導
 - 家庭・福祉（施設等実習）
 - 野外活動（ゴルフ・カヌー・乗馬、スキー実習）
 - 国際交流
 - セント・トーマス・アクワイナス高校交流
 - 韓国造形芸術高校交流
 - 産社・テーマ
 - テーマ学習の充実
 - 産業社会と人間
 - 学習成果発表会（他校招聘）
 - 進路指導充実
 - マナー講習会
 - 看護の職場体験
 - 進路指導資料の充実・進路講演会
 - 指導力向上
 - 教員研修・大学等訪問
 - コーチングスキル講習会
 - 新テスト対応

4 総合所見（成果・評価）

- ・授業改善の推進として「学びの文化祭 in Yonago」を開催して参加者が78名にとどまったが、広島県や島根県からの参加もあり、幅広い参加者があったことは評価できる。
- ・生徒の大学合格者数は24名だったが、新たな国公立大学に合格したことや、一般入試を受験して私立大学に合格するなど、充実した結果となった。
- ・資格取得の合格者数は目標に及ばなかった。保育検定1級の合格者がなく、音楽・リズム表現技術の向上に努めたい。また、英検2級合格は進学に必要であり、準2級も含め、更なる合格者を出す必要がある。
- ・テーマ学習における評価は0.2ポイント伸長で目標に及ばないが、テーマ学習に入る事前の学習が浸透している結果であり、今後も低い水準の伸長に留まることが予想される。
- ・教員が授業においてタブレット端末を積極的に活用している。分かる授業と深い学びに向け、更に活用を図るよう力を入れていく。